

提携米通信

2011年11月号・黒瀬農舎



19年前に植えたブナ／見事なブナ林になりました。
(2011年10月26日撮影)

稲刈りは終わりました。でも多忙な日が続きます。

今年の稲刈り時の天候も芳しくありませんでしたが、稲刈りは無事終わりました。

今年の10月下旬は、遅れていた東北地方の紅葉の最盛期ですが、年末のお餅の予約集計や稲刈り作業の後始末などに追われ、紅葉見物の時間は取れそうにありません。

ところで、数日前には、横浜でストロンチュウムが、また柏

市では、破損した側溝付近の土壌から、原発近隣の避難区域を超えるセシウムが検出されるなど、事故地の風下の地域で高濃度汚染が判明しました。

我が農舎は、安心頂けるお米をお届けしてきた責任上、放射能汚染については、種々のデータや情報に目を配り、また念には念を入れて、収穫前にも土壌や稲体を、収穫が始まると同時に玄米を、いずれも1ベクレルまでの精密な検査を行いました。すべて「不検出」(1ベクレル以下)でした。

セシウムは、我が「お米1Kg当たり500ベクレルまでは大丈夫。」という基準を作っています。半地は、その半の基準の500分の1以下ということです。

放射能が一番心配な子育て中の方も、どうぞご安心下さい。

半地が、横浜や柏市に比べても、ほとんど汚染されなかった幸運は①原発事故地から300Km以上離れていたこと。②事故時の風向など気象状況が、冬型の気圧配置で、半地は風上に位置したこと。の2つのお陰です。

さて、上の写真は、今から19年前に植えたブナの植栽地の状況報告です。

文化の日に行う「第19回目のブナ植え」のための、植え付け地の地直しや、歩道の整備に先日山に行きました。その折りに、最初に植えた第一植栽地を訪ねました。ブナの樹高は10mを超え、太い樹の各は30センチ以上になり、立派なブナ林に育っていました。皆さんのご支援に感謝です。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL: 0185-45-3088 FAX: 45-2887



☆お餅やリングゴなどのお目込みありがとうございます。お返しは、ご指定のない限り十一月末からのお米とさせていただきます。☆正月休みのお米は、年末に繰上発送させていただきます。

ブナ植と今年の米作りの話題

「ブナ植え」の話題は、表のページにも少し取り上げましたが、この「ブナ植」の運動は、今年で19年目にもなります。

これほど長く続いているのは、私たち地元の音だけでなく、お米をご利用頂いている多くの皆様のご支援のお陰です。

あらためてお礼申し上げます。



植栽地の地ごしらえ（10月26日撮影）

地元の私たちは、稲刈りを終わると、毎年植え付け準備のために、地ごしらえなどに数日山に通います。

また、植え付けた後の数年は、小さなブナは、雑草に飲み込まれますので、日植後の稲の管理が一段落した初夏に下草刈り作業を行います。

本来の農業に追われている中で、この時間を捻出する音痛は、少なからずあります。

でも、これらの作業時に、日働とは一味違った山の美味しい空気の中で、環境問題やお米作りについての意見交換したり、また、見事に育ったブナ林を見る喜びは格別です。

ちなみに今年の準備作業の時には、次のような話題が出ました。

無農薬など有機の米作りを行っている仲間の最近の悩みは、草取り作業のパートの女性がこの数年急激に減少していることです。

無農薬栽培の場合の手取り除草

作業は、一見簡単な作業のようで実は熟練が必要で、従って手取り作業の女性の年齢は60歳代が中心です。中には80歳前後の方もいらっしゃいます。

時々若い女性や男性も挑戦することがありますが、半日で音を上げるのがほとんど。長くて夕方まででダウン。翌日来る方は皆無です。

このため、年々人手が足らなくなって、仕方なく除草機掛けの戸数を増やすと、稲が傷ついたり、雑草に覆われて、収穫量が半作以下に下がります。

工業製品とは異なり、一般の農産物は、単位面積当たりの収穫量が半作になると、生産物1Kg当たりの生産費は、そのまま倍額になります。

現状の有機栽培米の価格は、有機栽培することによる収穫量の減少を2割前後と想定して、これに、有機栽培による掛かりまし経費を加えた額を売価にしているのが一般的です。このため、雑草に覆われて半作に減収する日働が増えると、有機栽培農家の経営は圧迫されます。

このため、誰もが除草体系の改善を色々考えています。決め手は見つからず「有機栽培を続けたいが、休った。休った。」と心配しているのが現状です。



第二回ブナ植えの18年前に植えたブナ
(2011年10月26日撮影)